



Newsletter of Center for the History of Meiji University

ニュースレター 明治大学史 No.14



シンポジウム「明治大学の歴史をかたる」（2017年12月20日 明治大学駿河台キャンパス）

目次

（巻頭言） 退任にあたって	明治大学史資料センター所長 山泉 進	2
特集① センターの研究発信事業		3
Ⅰ シンポジウム・講演会 Ⅱ 企画展示会		
特集② センター調査報告		7
Ⅰ 富谷銈太郎関係 Ⅱ 子母澤寛関係 Ⅲ 創立者宮城浩蔵関係		
大学史資料センター事業報告		9
大学史資料センター刊行物案内		12
明治大学の歴史／私学の誕生 明治大学の三人の創立者／木村礎研究 戦後歴史学への挑戦／布施辰治研究／ 三木武夫研究／明治大学小史 人物編／大学史紀要第24号 特集 総合講座「明治大学の歴史」		

(巻頭言) 退任にあたって

明治大学史資料センター所長
山泉 進

本センター所長に就任したのが2013年4月、それから5年間も居座っていたということになる。その前に別府昭郎所長のもとで5年間副所長を経験していたので、随分長く運営に携わってきた。振り返れば、年下の優秀な運営委員がいたので早く交代しておけばよかったと思わないでもない。私にとっては、政治経済学部秋谷紀男教授の逝去が交代の機会を失わせる大きな要因になった。資料センターのような組織は、明治大学のなかにおいては存在意義についての自己主張をしなければ、どこか片隅に追いやられる恐れがある、常々、私はそう思ってきた。そのこともあって、年度毎にセンターの課題を設定し、その実現を着実に実行してきたつもりである。それは、常に大学の使命である、「教育」「研究」「社会連携」と連動させることが必要であり、かつ人員（とりわけ教員の運営委員）を確保することが重要である。

「教育」はもちろん学部間総合講座「明治大学の歴史」を充実させていくこと、そのための教科書を刊行すること、を中心としている。さいわい、『明治大学小史』の通史編と人物編の2冊、創立者についての『私学の誕生』、新編の『明治大学の歴史』の4冊を刊行することができた。いずれも予算ゼロのなかで、出版社との交渉、構成についての検討、執筆者の割り振りなど、かなり強引な手法で進めてきたために執筆者の皆さんには随分とご迷惑をおかけした。また、総合講座の運営、実施にあたっての調整は事務局に全面的にお願いした。あらためて感謝を申し上げたい。「研究」をセンターの中心的な役割に位置づけたのは、他大学の大学史機関にたいして、明治大学としての特色を出したためであった。このことにより、教員研究者の参加を促し、また広報的な役割をはたすことができることも考えたからである。従来『大学史紀要』に編集委員会を置き、論文については査読体制を新設することにより、紀要としての学術的評価をたかめることができたとお

もう。課題としては、「研究叢書」として刊行してきた『尾佐竹猛研究』『布施辰治研究』『三木武夫研究』『木村礎研究』などの継続をどのようにはかっていくかにある。

「社会連携」については、とりあえずリベティアカデミーに開講、参加すること、また校友会や父母会と講演活動などにおいて連携することを考えてきた。また、歴代の理事長や理事の出身地をたずね、明治大学にたいして果たした功績の顕彰などをおこなってもいい。これは、センターの活動を教学関係に置きつつも、法人との連携を強める必要があると考えてきたためである。センターは法人組織である総務部に所属している。このことも配慮している。

将来的な課題として思っていることは、一つには明治大学のなかでの大学史資料センターの組織的な位置づけである。私は、大学の使命の4番目として「文化継承」をくわえ、図書館、博物館、マンガ図書館、平和教育登戸研究所資料館、阿久悠記念館などを包摂した運営部署を新設することを提案している。もちろん、大学史資料センターもこのなかで役割を果たしていくことになる。将来的には、このなかに平和のシンボルでもある「スポーツ」を加えることが明治大学の特色となると思っている。もう一つは他大学、あるいは他研究機関との連携である。国内的には法政大学、関西大学との大学史における連携が緒に就いている。今後は、国外との連携を実現する必要がある。さしあたりは創立者である岸本辰雄や宮城浩蔵が留学したフランスの大学との連携事業が考えられるし、アジア留学生たちが帰国後に活躍した東アジアの大学や研究機関との共同研究も考えられる。この点についてもアジア人留学生研究会を中心にして端緒がつけられている。

最後に、運営委員や事務局の皆さんのご協力にたいして心よりのお礼を申し上げます。

特集① センターの研究発信事業

大学史資料センターでは、これまで蓄積した知見と資料を研究資源として、学内各セクションや学外機関と連携しながら大学のステークホルダーや社会各層に向けて講演会やシンポジウムなど、センターの研究を発信する事業を行っています。今回は2017年度に実施した活動の一端をご紹介します。

I シンポジウム・講演会

○雑誌道楽 山崎今朝弥

〈リパティタワー1163教室 2017年7月5日（水）〉



『日本弁護士総覧』（1911年）に山崎が寄せた写真。山崎は風変わりな行動でも知られていました。

本講演会で紹介した山崎今朝弥（1877-1954）は、明治大学前身の明治法律学校を卒業後、同窓の布施辰治たちとともに、人権派弁護士として多くの実績を残しました。山崎については、センター内設置の研究部会・人権派弁護士研究会（研究代表 山泉進法学部教授〔センター所長〕・村上一博同教授〔センター運営委員〕）が研究を続けています。山崎は生前、弁護士活動の傍ら様々な雑誌や書籍を刊行したことで知られています。今回の講演会は、そのことをテーマとしています。村上委員の司会進行により以下の報告がなされました。飯澤文夫センター研究調査員「山崎今朝弥の雑誌」、山泉所長「今朝弥君の道楽人生」です。飯澤研究調査員の報告では、詳細な年譜と山崎の刊行した雑誌類、そして「山崎式分離統合型」と称した雑誌編集術が紹介されました。山泉所長の報告では、山崎今朝弥のアメリカ留学や、大杉栄と家族が殺害されたいわゆる甘粕事件と山崎をめぐる紹介がなされました。

なお、本企画への後援を明治大学法学部、同大学院法学研究科、同法科大学院、同図書館、同博物館、日本経済評論社から受けました。ご協力頂いた関係機関各位に厚く御礼申し上げます。



（左）村上委員（中央）山泉所長（右）飯澤研究調査員

○ 第1回子母澤寛文学賞・愛猿記賞記念シンポジウム

〈石狩市総合保健福祉センター りんくる 2017年8月27日（日）〉

センターでは、厚田ふるさと平和・文学賞実行委員会（北海道石狩市厚田地区会長 佐藤勝彦石狩市厚田区地域協議会会長、札幌大学名誉教授）が主催する「子母澤寛文学賞・同愛猿記賞」を後援しています。歴史小説家・子母澤寛（1892-1968）は、『新選組始末記』『勝海舟』などで知られる明治大学卒業生です。

今回、第1回となる子母澤寛文学賞・愛猿記賞記念シンポジウムに文学者研究会（研究代表 吉田悦志国際日本学部教授〔センター運営委員〕）のメンバーが参加しました。各賞贈呈のあと、吉田委員が基調講演を行い、その後のシンポでも司会をつとめました。

「子母澤寛と阿久悠一大衆性の原点」と題した吉田委員の基調講演では、子母澤寛の郷里である厚田とそれをめぐる人びと、そして作品について紹介しながら、同じく明治大学出身である作詞家阿久悠（1937-2007）とを併置し、それぞれの作品の根底に流れる大衆性について紹介しました。その後行われた記念シンポジウムには、佐藤会長、塩原将行氏（創価大学創価教育研究所所主事）、丹羽秀人氏（函館市中央図書館館長）、森厚氏（農民文学賞作家）が出席。吉田委員の進行により、子母澤文学の魅力とその意義について意見交換を行いました。



○ 阿久悠日記の《謎》を読み解く〈明治大学中央図書館多目的ホール 2017年9月30日（土）〉

明治大学図書館との共催で実施した特別展示「〈応援歌〉としての阿久悠日記」と併せ、講演会及びトークイベントを開催しました。昭和歌謡史研究会（代表 吉田委員）の企画によるもので、日本を代表する作詞家・作家である阿久悠（1937-2007）の没後10年・生誕80周年・作詞家活動50年を記念して開催しました。最初に富澤成實政治経済学部教授（センター運営委員）による「阿久悠日記と『日記力』『日記』を書く生活のすすめ」と題した講演では、阿久悠の日記をめぐる著書を用いながら、阿久が日記を書き始めた動機やアンチロマン日記の内容について、丁寧に解説がなされました。続いて阿久悠令息の深田太郎氏と、吉田悦志副学長（国際日本学部教授）によるトークイベント「阿久悠日記の《謎》を読み解く」が行われ、吉田副学長の進行により、家族であると同時に、研究の視点から阿久悠日記を深く解読した深田氏から、阿久の日記スタイルの変遷や、一つの日本人論としても読める日記をめぐる様々な《謎》が明らかにされました。



○ 様々な明治大学〈ホームカミングデー特別講演会 リバティタワー1011教室 2017年10月22日（日）〉

毎年10月に開催する明治大学ホームカミングデーにおいて、社会連携事務室主催の公開講座の一環として、創立者・関係者や大学の歴史を紹介する講演会を実施しています。2017年度の講演会においては、明治大学の持つ多面的な魅力を紹介する講座を開講しました。担当者と講演内容は次の通りです。野尻泰弘文学部准教授〔センター運営委員〕「明治大学創立者のふるさと——越前国鯖江」、三田剛史商学部准教授〔同〕「明治大学に留学した現代中国の先駆者」、富澤委員「明治大学図書館所蔵・宮澤賢治『春と修羅』初版本をめぐる」、松下浩幸農学部教授〔同〕「映画関係者列伝——俳優・女優・監督・脚本家」、吉田委員「阿久悠——詞と人生」です。母校に戻ってきた校友とリバティアカデミー会員200名あまりが、講師陣による多様な明治大学の歴史の紹介に熱心に聞き入っていました。

○ 明治大学の創立から現在〈明治大学父母交流会 リバティタワー1012教室 2017年11月26日（日）〉

父母交流会での講演会は2016年開始の新しい企画です。今回は、「明治大学の創立から現在」と題した講演会を開催しました。最初に村上委員が「明治大学の創立」と題して、創立期の明治大学関係者と学生たちが非常に苦労しながら法学を教え、学んでいたことについて講演をしました。続いて山泉所長が「明治大学の現在」と題した講演を行いました。山泉所長は、近年の世界大学トップ1000ランキングなどを引用しながら、明治大学の現在と今後の展望も含めた報告を行いました。父母に向けた講演会は今後も継続する予定です。

○ 明治大学の歴史をかたる&併催スペシャルイベント「明治大学校歌原譜」を弾き歌う！〈紫紺館S3・S4会議室 2017年12月20日（水）〉

明治大学137年の歩みをまとめた『明治大学の歴史』（DTP出版）の刊行を記念した講演会・シンポジウム「明治大学の歴史をかたる」を開催しました（本誌表紙写真）。基調報告に立った山泉所長から、これまで50年、70年、100年、120年、130年めの節目に行われたきた明治大学の周年記念事業について解説があり、創立150周年に向けて、これまでの文化的な資産の伝承について考えていくことが重要であると総括しました。その後行われたシンポジウムには、同書の執筆にあたった高田幸男文学部教授〔センター副所長〕、吉田委員、村上委員が登壇。山泉所長の司会により討論を行いました。校友や社会連携、キャンパスライフと留学生、創立者たちと草創期の学生たちの活動など、明治大学をめぐる様々な視点からの分析と、書籍刊行の意義をめぐる討論が行われました。

そしてスペシャルイベントとして「明治大学校歌原譜」を弾き歌うも併催しました。1920年に成立した明治大学校歌（児玉花外作詞 山田耕筰作曲）は、学生の主導により成立したユニークな経緯を持っています。また、当時学生スポーツとして人気の高かった端艇大会で歌うために作歌されたため、山田に

よる自筆譜面（「原譜」と称する。明治大学図書館蔵）には現在の校歌では歌われない応援のフレーズが含まれていました。今回特別に編成された明治大学グリークラブスペシャルメンバーと、モスクワ音楽院卒業のピアニスト・金子奈津子氏のご協力を得て、97年ぶりに「校歌原譜」を再現する運びとなりました。イベント企画に終始協力を頂いた福岡英朗生田就職キャリア支援事務長の挨拶の後、金子氏から山田耕柝の人物と作品について紹介がされました。そして金子氏がピアノ独奏で当時の校歌を演奏し、続けて金子氏の伴奏によりグリークラブが「明治フレー」「Hip Hip フレー」といった、山田の原譜に残されたフレーズを含む当時の校歌を力強く歌いました。最後には参加者全員で当時の校歌斉唱も行いました。



なお一連の本イベントには、明治大学学長室、同図書館、株式会社DTP出版の後援を受けました。ご協力頂いた関係機関並びに関係者各位に厚く御礼申し上げます。

○ トークイベント 父を語る（承前）〈阿久悠記念館 2018年1月20日（土）〉

阿久悠と、「同棲時代」などで知られる漫画家・イラストレーター上村一夫（1940-1986）は深い知友であり、阿久シナリオ・上村作画による『悪魔のようなあいつ』（1975年）など多数の共作を発表しています。昨2017年は両氏のそれぞれ作詞家・漫画家デビュー50年にあたることもあり、センター内の阿久悠記念館運営委員会（運営責任者 吉田委員）では同イベントを企画しました。冒頭、阿久悠記念館運営副責任者の冨澤成實政治経済学部教授によるあいさつの後、深田太郎氏（株式会社阿久悠 阿久長男）と、上村汀氏（上村一夫オフィス 上村長女）が登壇しました。

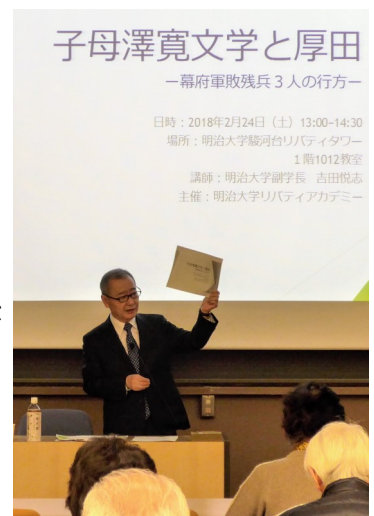


話題は阿久氏と上村氏の生誕、青年期、広告代理店・宣弘社での出会い、その後の漫画共作や交流に関することから、上村氏が重要な役割で描かれる昨年放送のテレビドラマ「時代をつくった男 阿久悠物語」、上村氏のイラストがジャケットに採用されたレコード会社7社共同企画「阿久悠メモリアル・ソングス」まで、没後もいまだに話題の絶えない、時代を創った2人のクリエイターについて、深く熱のこもった対話が行われました。

○ 子母澤寛文学と厚田一幕府軍敗残兵3人の行方〈リバティタワー1012教室 2018年2月24日（土）〉

センター主催「子母澤寛展」（明治大学中央図書館ギャラリー）と連動して、子母澤の故郷である石狩市厚田とその周辺に集う人びとにスポットをあてた、吉田委員による講演会を実施しました（リバティアカデミー公開講座）。

吉田委員は講演で、中央分水嶺を隔てて日本海側に面し、厚田も隣接する石狩湾岸に様々な文化や歴史がめぐっていることに触れた上で、厚田周辺にゆかりの深い幕府軍敗残兵3人について紹介しました。1人は子母澤の祖父である梅谷十次郎です。上野の山で彰義隊に加わり、函館戦争参加後に敗北、その後厚田にたどりついた人物です。いま1人は新撰組二番隊長の永倉新八です。永倉は、後半生を北海道で過ごし、厚田にほど近い樺戸集治監で剣術師範もつとめました。最後の1人は牧田重勝です。牧田は陸奥国棚倉藩出身の士族で、維新後警視局巡查や永倉と同じく樺戸集治監で監守をつとめた人物です。直心影流の剣士としても知られ、のちに厚田に直心館という剣道場を設け、幼いころの子母澤もここで剣道を学びました。後年子母澤は牧田をモデルとして、「或る人の物語」という短編小説をまとめています。吉田委員は、この三者の交錯と、子母澤も親しく接した牧田重勝についてあらたな知見を披露し、参加者は熱心に聞き入っていました。



Ⅱ 企画展示会

大学史資料センターでは、これまでの研究成果を活用して関係機関と連携して各種展示会を実施しています。今回は2017年度に実施した企画展示をご紹介します。

○ 〈応援歌〉としての阿久悠日記〈2017年9月27日（水）～10月9日（月） 明治大学中央図書館ギャラリー〉

阿久悠は1981年から日記を書き始め、亡くなる2007年までに27冊の日記を書き残しました。阿久は、日記に自らの感情を記すことを徹底して排除し、感性のアンテナにかかった情報を分析・記述する場と位置づけ、特異な自らのものの見方、ひいては生き方の羅針盤としました。阿久の没後10年・生誕80周年・作詞家活動50年の節目にあたる今回、明治大学阿久悠記念館（明治大学史資料センター所管）で保管する、この比類なき日記の一部公開を行いました。

※本研究展示及び関連講演会等イベントはJSPS科研費16K02337助成を受けたものです。



○ 阿久悠と上村一夫〈会期Ⅰ 2017年12月1日（金）～12月25日（月） 会期Ⅱ 2018年1月9日（火）～2月25日（日） 阿久悠記念館〉

阿久悠の作詞家活動50年、上村一夫の漫画家デビュー50年にあたる2017年、阿久原作・上村作画による作品原画類など、2人が共同であたった仕事を紹介しました。株式会社阿久悠・上村一夫オフィスのご厚意により、上村一夫オフィスにて所蔵する「SCAN.DOLL」「一匹女狼 グッバイマリア」「俺とお前の春歌考」「男と女の部屋」「人喰い」「ざんげの値打ちもない」「ジョンとヨーコ」「花心中」「悪魔のようなあいつ」「その後のオール・ジャパン・デビル・バンド」の貴重な原画をお借りし、展示することができました。関係者のご協力に厚く御礼申し上げます。

○ 子母澤寛展〈2018年2月21日（水）～3月15日（木） 明治大学中央図書館ギャラリー〉

明治大学図書館及び厚田ふるさと平和・文学実行委員後援により、子母澤寛の文学作品を中心とした展示会を開催しました。今回は、センター及び明治大学図書館所蔵の子母澤作品、生原稿、書簡を中心とした展示でしたが、創価大学創価教育研究所のご厚意により、子母澤と同郷の戸田城聖（創価学会2代会長）が興した出版社から刊行した貴重な初期作品『大道』『国定忠治』『勝安房守』をお借りし、展示いたしました。また中根誠治氏から、貴重な収集作品及び書簡をお借りし、展示に供しました。関係者のご協力に厚く御礼申し上げます。



○ 神田学生街の記憶 1880-1980 五大法律学校の軌跡〈2018年1月9日（火）～2月28日（水） ECOM駿河台〉

センター、専修大学大学史資料課、中央大学大学史資料課、日本大学企画広報部広報課、法政大学史センター主催、三井住友海上火災保険株式会社共催により、写真を中心に神田学生街の移り変わりをたどる企画展「神田学生街の記憶 1880-1980 五大法律学校の軌跡」を開催しました。

神田地域（現・東京都千代田区）は、明治以降にさまざまな学校が設立され日本有数の学生街として今日に至っています。今回の展示では、神田に東京法学社（現・法政大学）が創立された1880（明治13）年から、中央大学が駿河台の地に別れを告げた1980（昭和55）年までの100年を対象とし、私立法律学校として産声を上げた神田ゆかりの専修、中央、日本、法政、明治の5大学の大学アーカイブズが主に所蔵するさまざまな写真から神田学生街の記憶にせまる試みを行いました。

※本研究展示は、JSPS科研費16K03060助成を受けたものです。



特集② センター調査報告

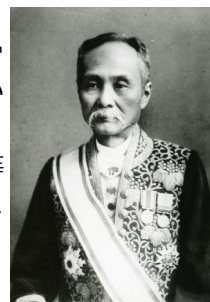
大学史資料センターは明治大学のアーカイブズとして、大学が歩んできた歴史に関する様々な調査・資料収集活動を行い、蓄積した資料を整理して基礎資源として各種問い合わせへの対応、成果物等の刊行、展示会等を開催しています。本号では2017年度（2018年1月まで）に実施した調査をご紹介します。

I 富谷銑太郎関係

○ 富谷銑太郎関係資料調査〈2017年6月28日（水）〉

富谷銑太郎（とみたに・しょうたろう 1856-1936）は、司法省法学校を卒業後、裁判官として、東京控訴院部長、大審院判事、同院長を歴任した人物です。1921年から24年にかけて明治大学の第3代学長を務めました。

今回富谷氏のご遺族から自画像・書簡・古記録の受贈を受けるとともに、富谷の家系等についても詳細を知ることができました。今後センターでは、資料の分析を進めていくことにしています。



（村上一博・阿部裕樹） ※カッコ内は調査者

II 子母澤寛関係

○ 子母澤寛関係資料調査〈2017年8月26日（水）～28日（金）北海道石狩市、札幌市〉

文学者研究会（代表 吉田委員）を中心として毎年関係故地において子母澤寛に関する調査を推進しています。この調査では、北海道石狩市及び札幌市を調査しました。26日は、石狩市民図書館において、同館の清水千晴副館長の案内により開催中の「子母澤寛資料特別展示」（子母澤令孫の宮川甲八郎氏の石狩市寄贈資料を中心にした展示）及び貴重書庫を見学したのち、同館所蔵の郷土資料類を閲覧調査しました。

翌27日は、中根誠治氏の御案内により、塩原将行氏も同行し、石狩市厚田地区の子母澤寛及び佐藤松太郎の生家を巡見した後、厚田総代を務めた佐藤辨蔵のご子孫のお宅を訪問しました。佐藤辨蔵は、牧田重勝を厚田に招いた人物でもあります。牧田は厚田に剣道場直心館を開き、剣士の育成につとめました。同家では、佐藤辨蔵の履歴や社会奉仕活動にかかわる様々な資料とともに、厚田で代書業も営んでいた牧田による貴重な自筆の証書類も残されていました。同日は第1回子母澤寛文学賞・愛猿記賞記念シンポジウムに参加し、吉田委員は基調講演を行いました（詳細は本誌5頁をご覧ください）。

最終日となる28日は、子母澤寛の異母弟である画家の三岸好太郎（1903-1934）の生家跡である豊川稲荷札幌別院を訪問しました。

その後、三岸が、作家・有島武郎がスケッチをしているところを目撃したというエピソードがある北海道大学札幌キャンパスへと移動しました。

有島は北海道大学前身の東北帝国大学農科大学で教壇に立ち、絵画サークル黒百合会を設立しています。三岸は同会との縁が深く、同会主催の展覧会に絵画を賛助出品もしています。本調査では、有島が北海道大学に在籍していた時代の遺構等を確認しました。



（吉田悦志・富澤成實・村松玄太）

○ 子母澤寛関係資料調査〈2017年11月23日（土）創価大学創価教育研究所 牧田重勝子孫宅〉

この調査では、創価大学創価教育研究所において、戸田城聖が設立した出版社である大同書房と日生書房から出版した子母澤寛の作品を閲覧させていただきました。同研究所において、「大道書房・日生書房が刊行した単行本一覧」、平尾道雄著・子母澤序文『海援隊始末記』1941年、子母澤「赤穂異聞 怪童からす丸第1・4回」『小学生日本 五年』（1935年4月号【2巻1号】・7月号【2巻4号】）のコピー類を受贈しました。なお吉田委員は同日同大学において、特別講義「作家・子母澤寛誕生の風土―幕府軍敗残兵3人と厚田村」を行いました。

調査終了後、中根誠治氏同行により、牧田重勝の曾孫の方のお宅を訪ねました。同家において、子母澤の本名である梅谷松太郎の名のある直心館門人帳の写し、牧田の名のある官許撃剣会資料、牧田家系図及び戸籍謄本、明治24年2月22日国家之骨髓大撃剣会資料などを拝見させていただきました。また、同氏から、係累の方をご紹介いただきました。

（吉田悦志・村松玄太）

○ 子母澤寛関係資料調査〈2018年1月8日（月） 牧田重勝子孫宅〉

子母澤が剣道を学んだ厚田直心館道場主・牧田重勝の調査を継続しています。同日は牧田の曾孫にあたる方と、孫にあたる方のお宅を訪問し、資料を拝見させていただくとともに、種々お話を伺うことができました。最初に曾孫にあたる方のお宅をお訪ねし、直心館入門帳の原本、牧田家由緒書のほか、牧田が北海道を剣術修行のたびに出ていた時につけていた日記、各種辞令など、貴重な資料を拝見させていただきました。

その後場所を移し、牧田の孫にあたる方にお目にかかりました。同氏からは、牧田が篆刻した印章や短冊・書幅・写真を見せていただくとともに同家に伝わる牧田の履歴につきご教示をいただきました。

（吉田悦志・村松玄太）

Ⅲ 創立者宮城浩蔵関係

○ 創立者宮城浩蔵関係資料調査〈2018年3月8日（木）～10日（土） 山形県内〉

創立者研究会では宮城浩蔵関係資料等の調査を山形県内で実施しました。参加者は山泉進所長、村上一博委員、野尻泰弘委員、阿部裕樹（事務局）です。初日は、山形県立米沢女子短期大学を訪ね、同学布施賢治教授の案内で同短大50周年記念資料室を見学し、さらに布施教授から宮城をめぐる当時の山形県域の政治・社会状況について情報および資料をご提供いただきました。

2日目は、千歳公園（山形市）内の宮城浩蔵顕彰碑、山形県郷土館・文翔館（旧山形県庁舎、山形市）、旧山形県会議事堂（山形市）、千歳館

（料亭、山形市）、宮城浩蔵胸像（天童市、同市立旧東村山郡役所資料館長・細 湯村章男氏（前列左）と矢実氏案内）など、宮城ゆかりの史跡・場所を巡見しました。また、山形県立図書館にて関係資料調査を実施しました。

最終日は、湯村章男氏（天童郷土研究会会長）をお招きし、天童市市民文化会館第2・3学習室にて創立者研究会（第9回）を開催しました。湯村氏からは、天童市における宮城浩蔵研究・顕彰活動の歴史と、同氏の最新の研究成果をご報告いただきました。

（山泉進・村上一博・野尻泰弘・阿部裕樹）



明治大学史に関する資料の情報提供のお願い

どんなことでも結構ですので、明治大学の歴史や卒業生に関する資料や情報の提供をお待ちしております。よろしくお願いいたします（電話 03-3296-4329・4085（担当村松・阿部））

大学史資料センター事業報告(2017年度)

1 資料の調査・収集・公開

各部署で所蔵する、保存年限は終了したものの歴史的価値を有する学内文書の調査・移管を随時実施しました。従前から取り組んでいる関係部署との連携をより深め、劣化の著しい文書類については速やかに移管を進めて整理・保存のための措置を講じ、大学アーカイヴズとしての機能強化を図っています。創立者・著名校友（人権派弁護士・昭和歌謡関係者・財界人関係者）・アジア留学生等に関する資料の調査・収集についても継続して推進しています。蓄積した資料や情報は校史を明らかにする材料としてばかりではなく、研究資源としても学内外に幅広く公開します。2017年度は約150件の照会に対応しました。

2 編集・刊行

調査・収集の成果を学内外に広く公開するため、以下の刊行物を編集・刊行しました。

- ① 大学史資料センター編『明治大学の歴史』DTP出版（2017年11月発行）
- ② 論文集『大学史紀要 第24号 特集 総合講座「明治大学の歴史」』（2018年3月発行）
- ③ 広報誌『ニュースレター 明治大学史』第14号（本誌）

3 教育

駿河台・和泉・生田・中野キャンパスにおいて「学部間共通総合講座 明治大学の歴史」を開講しています。明治大学で学ぶ学生に、自分の学んでいる大学がどのような理念で設置され現在に至っているのか、そして大学の特色がどこにあるのかを最新の知見により知らせ、学生が大学をより身近に感じ、大学生活を豊かにすることを目的としています。

4 展示

大学の理念や歩みを幅広い層にわかりやすく伝えていくため、センターで収集・所蔵している資料の展示を実施しました。

- ① 大学史展示室（常設展示 駿河台キャンパスアカデミーコモン地下1階）
- ② 阿久悠記念館（常設展示 同）
- ③ 大学小史展示（企画展示 駿河台キャンパス大学会館1階）
- ④ 各種企画展示（特集参照）

5 社会教育

内外の幅広い層に向け公開講座等を実施し、「開かれた大学」として社会的使命を果たします。

6 大学史資料センター運営委員会・研究会等

センターで開催した各種会議・研究会等は以下の通りです。

① センター運営委員会

- | | | | | |
|------|----------------|----|-------------------------|---|
| 第90回 | 2017年 4月26日（水） | 議題 | 創立150周年記念編纂準備委員会の設置について | 他 |
| 第91回 | 2017年 6月21日（水） | 議題 | 2018年度学部間共通総合講座について | 他 |
| 第92回 | 2017年 9月20日（水） | 議題 | 2018年度資料調査出張旅費申請について | 他 |
| 第93回 | 2017年11月15日（水） | 議題 | 『明治大学の歴史』出版記念シンポジウムについて | 他 |
| 第94回 | 2017年12月20日（水） | 議題 | 2018年度正副所長の選任について | 他 |
| 第95回 | 2018年 1月31日（水） | 議題 | 新規運営委員委嘱候補者の選定について | 他 |
| 第96回 | 2018年 3月 7日（水） | 議題 | 展示会への協力依頼について | 他 |

② 創立者研究会

（構成員 山泉進所長【代表】 村上一博委員 野尻泰弘委員 村松玄太・阿部裕樹【事務局】）

○資料調査（山形県山形市・同天童市） 2018年3月8日（木）～10日（土）

③ 人権派弁護士研究会（第Ⅱ期）

（構成員 村上一博委員 【代表】山泉進所長 長沼秀明研究調査員 飯澤文夫研究調査員

中村正也研究調査員 阿部裕樹【事務局】)

第47回 2017年 4月19日(水) 内容 中村研究調査員報告 他

第48回 2017年 5月10日(水) 内容 山崎今朝弥関係講演会について 他

第49回 2017年 6月21日(水) 内容 山崎今朝弥関係講演会について 他

○資料調査(富谷銑太郎遺族) 2017年6月28日(水)

○講演会「雑誌道楽 山崎今朝弥」 2017年7月5日(水)

第50回 2017年 7月19日(水) 内容 富谷銑太郎資料の受贈について 他

第51回 2017年11月22日(水) 内容 図書館購入布施辰治資料について 他

④ アジア留学生研究会

(構成員 高田幸男副所長【代表】 山泉進所長 村上一博委員 三田剛史委員 李英美委員
山下達也委員 土屋光芳研究調査員 鳥居高研究調査員 鈴木将久研究調査員 長沼秀明研究
調査員 阿部裕樹【事務局】)

第54回 2017年 1月18日(水) 内容 第50回中国人留学生史研究会ワークショップ参加報告 他

第55回 2017年 4月 5日(水) 内容 大学院講義・学際系総合研究Aシラバスについて 他

第56回 2017年 6月 7日(水) 内容 シンポジウム参加報告 他

第57回 2017年10月 4日(水) 内容 科研費申請について 他

第58回 2017年12月 6日(水) 内容 シンポジウム参加報告 他

⑤ 財界人研究会

(構成員 白戸伸一委員【代表】 村上一博委員 阿部裕樹【事務局】)

○セーレン株式会社川田達男会長インタビュー

2017年10月23日(月) 内容 白戸委員聞き取り

⑥ 昭和歌謡史研究会

(構成員 吉田悦志委員【代表】 富澤成實委員 村松玄太【事務局】)

○講演会・トークイベント 阿久悠日記の《謎》を読み解く 2017年9月30日(土)

○トークイベント 父を語る(承前) 2018年1月20日(土)

⑦ 文学者研究会

(構成員 吉田悦志委員【代表】 富澤成實委員 村松玄太・阿部裕樹【事務局】)

○資料調査・講演会 子母澤寛と阿久悠一大衆性の原点—(北海道石狩市・同札幌市) 2017年8月26日
(土)~28日(月)

○資料調査(創価大学・牧田重勝曾孫宅) 2017年11月23日(土)

○資料調査(牧田重勝曾孫及び孫宅) 2018年 1月 8日(月)

○講演会 子母澤文学と厚田 2018年2月24日(土)

明治大学史資料センタースタッフ一覧(2018年3月1日現在)

所 長 山泉 進(法学部教授・図書館長)

副 所 長 高田 幸男(文学部教授)

運営委員 村上 一博(法学部教授・博物館長) 若林 幸男(商学部教授)

李 英美(商学部教授) 三田 剛史(商学部准教授)

富澤 成實(政治経済学部教授) 野尻 泰弘(文学部准教授)

山下 達也(文学部准教授) 松下 浩幸(農学部教授)

吉田 悦志(国際日本学部教授・副学長・阿久悠記念館運営責任者)

白戸 伸一(国際日本学部教授) 岩崎 宏政(社会連携事務長)

(以上、センター規程第8条第1項第3号に基づく委員)

高山 茂樹(総務部長) 鈴木 優一(総務課長)

(以上、センター規程第8条第1項第4・5号に基づく委員)

事務局 (総務部総務課〈大学史資料センター担当〉)

村松 玄太 石川 令子 阿部 裕樹

江原 千秋(嘱託) 吉田晋一郎(嘱託)

明治大学史資料センター規程

2002年11月18日制定
2002年度規程第10号

(設置)

第1条 学校法人明治大学（以下「本法人」という。）に、明治大学史資料センター（以下「センター」という。）を設置する。

(目的)

第2条 センターは、本法人の歴史（以下「校史」という。）に関する調査、研究並びに校史に係る資料（以下「資料」という。）の収集、保存及び公開を行い、もって本学の発展に資することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 校史の調査及び研究
- (2) 校史の編纂
- (3) 資料の収集、整理及び保存
- (4) 資料の展示
- (5) 展示場の管理・運営
- (6) 校史に関する情報の提供等
- (7) 出版物等の編集・刊行
- (8) 講演会等の実施
- (9) その他必要な事業

(組織)

第4条 センターは、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 所長
 - (2) 副所長
 - (3) 第8条第1項第3号に定める運営委員
 - (4) 第8条の2に定める研究調査員
 - (5) 総務部総務課長及び事務職員
- 2 前項に掲げる者のほか、センターは、事業計画の実施上必要があるときは、嘱託を置くことができる。

(所長)

第5条 所長は、センターの業務を総括し、センターを代表する。

- 2 所長は、専任教員である運営委員の中から、運営委員会が理事長に推薦し、理事会において任命する。
- 3 所長の任期は、2年とする。ただし、補欠の所長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 所長は、再任されることができる。

(副所長)

第6条 副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるときは、その職務を代行する。

- 2 副所長は、所長が理事長に推薦し、理事会において任命する。
- 3 前条第3項及び第4項の規定は、副所長の任期及び再任について準用する。

(運営委員会)

第7条 センターに、次に掲げる事項について審議するため、運営委員会を置く。

- (1) センターの事業計画に関する重要事項
- (2) センターの管理・運営に関する重要事項
- (3) 校史の調査及び研究に関する事項
- (4) その他運営委員会が必要と認めた事項

(運営委員)

第8条 運営委員会は、次に掲げる運営委員をもって構成する。

- (1) 所長
- (2) 副所長
- (3) 校史に関して専門知識を有する専任教職員の中から、運営委員会の推薦に基づき、理事長が理事会の同意を得て委嘱する者若干名
- (4) 総務部長
- (5) 総務部総務課長

2 運営委員の任期は、職務上運営委員となる者を除き、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 補欠の運営委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究調査員)

第8条の2 センターに、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本学教職員の中から、所長が運営委員会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項の規定にかかわらず、運営委員又は研究調査員が退職する場合であって、当該者に継続して校史の研究を行わせることが適切であると所長が認めるときは、退職後も引き続き研究調査員として委嘱することができる。

(委員長及び副委員長)

第9条 運営委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長には所長を、副委員長には副所長をもって充てる。
- 3 委員長は、運営委員会の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第10条 運営委員会は、委員長が招集する。

- 2 運営委員会は、運営委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 3 運営委員会の議事は、出席運営委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 理事長は、運営委員会に出席し、意見を述べることができる。
- 5 運営委員会は、必要に応じて、運営委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第11条 センターに関する事務は、総務部総務課が行う。

(規程の改廃)

第12条 この規程を改廃するときは、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターの管理及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て定める。



明治大学の歴史 〈DTP出版刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 363頁 定価2530円+税(2017・11)

明治大学の現在と過去の歴史について、多様な側面から光を当てた入門書。これまでの書籍にはなかったトピックス別にまとめた内容で、興味の向くままに読み進めることができる。第Ⅰ部「大学・学部の歴史」では、戦前・戦後の大学の歴史をコンパクトに紹介。10学部の成り立ちと背景について触れる。第Ⅱ部「キャンパスと学生生活」では、戦前・戦後の学生生活と駿河台・和泉・生田・中野に展開する4キャンパス誕生、図書館・博物館など特色ある大学施設を紹介。第Ⅲ部「校友と社会活動」では、各分野で活躍する卒業生(校友)の活躍と校友会・父母会の歴史、スポーツ等を紹介。第Ⅳ部「21世紀の明治大学」ではいわゆる大綱化以後の教育・研究・社会貢献・グローバル化を取り上げる。



私学の誕生 明治大学の三人の創立者 〈創英社／三省堂書店刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 240頁 定価1700円+税(2015・3)

明治大学の創立者・岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操を紹介する初めての公式本。第1部では創立者たちの出身藩である岸本辰雄と鳥取藩、宮城浩蔵と天童藩、矢代操と鯖江藩との関わりを紹介する。第2部「明治大学の誕生」では、「貢進生」として上京した3人が明治法律学校を創立するに至るまでの道のりを紹介する。第3部では、「創立者たちの遺したもの」と題して、明治法律学校の創立以後の3人の経歴と業績、そしてその後の顕彰運動を取り上げる。



木村礎研究 戦後歴史学への挑戦 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター編 A5判上製 256頁 定価3500円+税(2014・8)

木村礎は戦後日本の歴史学研究をリードし、近世村落史研究の画期を築いた。村を歩き、古文書調査と歴史資料保存の方法論を確立した。また、明治大学学長を務め「大学史」に力をつけた。その一端を明らかにする木村礎研究会の成果。付・年譜、文献目録。



三木武夫研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 小西徳應編著 A5判上製 400頁 定価5200円+税(2011・10)

国民を恐れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る。



布施辰治研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 山泉進・村上一博編著 A5判上製 328頁

定価4000円+税(2010・12)

日本のシンデラーとも呼ばれた「人権派弁護士」布施の多面的な活動を史料とともに検証する。



明治大学小史 人物編 〈学文社刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 248頁 定価2300円+税(2011・10)

明治大学が輩出した人物を大学行政・アカデミズム・法曹・政治・財界・作家・芸能文化・スポーツ・アジア人留学生の諸分野から119名を精選して紹介。

定期刊行物 ※入手方法についてはセンターまでお問い合わせ下さい。

特集 総合講座「明治大学の歴史」 大学史紀要第24号 A5判並製 (2018・3)

1998年に総合講座「日本近代史と明治大学」が開始して20年を迎えることを記念して、総合講座の経緯と講座担当者の提言を収録。セーレン川田達男会長インタビュー、深田太郎(阿久悠令息)対談、研究ノート山崎今朝弥の活動・学位授与の歴史も掲載。

ニュースレター明治大学史 No.14

<http://www.meiji.ac.jp/history/>

発行日 2018年3月30日

編集・発行 明治大学史資料センター 所長 山泉 進

所在地 101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086